



第1回 敦賀Rハッカソンにて

渦中の人たち

INTERVIEW

かぐ〜るは“ハートの整備”が創りあげた“ハードの整備” 港都つるが株式会社

港都つるが株式会社では、スピーディーな中心市街地活性化を目的に、まずは市民活動が盛んな神楽町一丁目商店街と連携し、民間企業の立場を活かした事業を令和元年から展開してきました。同じ年に、タウンマネージャーの阿部俊二さんの発案で企画したのが、リノベーションワークショップ「敦賀Rハッカソン」です。講師にはデザイナーと建築士を招き、実際に工作をするDIYチームと、3日間に渡り空きビルのリノベーション計画を議論する、プランニングチームに分かれて開催しました。

プランニングチームの対象物件となったのが、氣比神宮の正面に位置する通称「かくだビル」です。築約50年、かつては靴屋や事務所として使われていたこのビルを、オーナーのご厚意で、敦賀Rハッカソンの舞台にさせていただきました。楽しみながら工作を学んだDIYチームとは一線を描き、プランニングチームには3日間に多くのドラマがありました。腹を割って意見をぶつけると、そこにまた別の意見がぶつかり…と、生みの苦しみを味わった参加者たち。そこから1年ほどの間に、彼らがまちの中で次々と「自分のやりたいこと」をカタチにしていく姿も見てきました。こんなにも刺激的なワークショップになるとは主催の私たちも思いもよらなかった。

そんなプランニングチームが生み出したリノベーション案が「かぐ〜る」です。参加者の思いを引き継ぎ、神楽町一丁目商店街と連携して国や市の補助金を取得し、「かぐ〜る」を実現させました。施工は、プランニングチーム参加者でもある有限会社大幸ハウジングの橋本さんに依頼しました。内装のデザインにも参加者の意見を取り入れ、ある種実験の場として、「初めてのリノベーション」を実践していただきました。

かぐ〜るは、各種イベントの開催および販売スペース、観光案内や観光客の休憩所などの利用方法を想定していますが、まずは敦賀市民のみなさまに、自分の「やってみたい」を実現する、チャレンジの場として活用していただけると大変うれしいです。

まちづくり会社として、常にまちづくりに向き合っている私たちですが、まちづくりにはまず「ハートの整備」が大切だと感じます。ハートの整備とは、目配り、気配り、心配りです。全体を見渡し、情報を収集する目配りと、誰かの思いに耳を傾ける気配り。そして、実現に向けて自分がしてあげられることを考える心配り。この三拍子が揃うことで、ようやく「ハードの整備」へとつながります。「かぐ〜る」はまさしく、敦賀Rハッカソンという、「ハートの整備のたまもの」ではないかと思えます。

※ 経済産業省中小企業経営支援等対策費補助金（商店街活性化・観光消費創出事業）及び敦賀市商店街等魅力向上拠点整備事業費補助金を活用しています。

この場所に携われたことは町の工務店としてとても誇らしい

有限会社 大幸ハウジング
代表取締役 橋本 大輔

数年前、あるトークイベントで聞いた話をきっかけに「まちが変わること」に興味を持ちました。そこで、元町生まれの自分も参加できるという、「氣比さん参道いきいき会議」に誘っていただき、会議を通して神楽町一丁目商店街の方々と関わるようになりました。

ハッカソンの開催は、こうしたまちの活動に参加する中で知りました。もともと、地域に根ざした工務店の2代目として、時代の変化による新築住宅の需要減少や、リノベーションへの世間的関心の高まりは感じていました。そんな折に、リノベーションのプロが講師として来るということで、勉強になりそうだと

と思いハッカソンに参加することを決めました。

プランニングチームでは、建築や経営の知識を活かし、他のメンバーから出る意見を元に「これをするには何がどれくらい必要か」を考える役割をしていました。元々誰かの「やりたい」を手伝うことが好きで、チーム内でも親父的な存在だったと後々言われます。

施工の段階においても、当時のメンバーを集めてアイデアを出し合ったり、天井をみんなで剥がしたり、壁の塗装にも協力してもらったりと、一緒に作り上げていきました。限られた予算の中で、メンバーから随時出てくる「こうしたい」をなんとか叶えようとしたところ、これがなかなか大変で。出来上がってみると、最初に出した見積もりと、予算の使い方が全く違う内容になっていたんです。(笑)また、リノベーションは「古さもあえて活かす」ことが特徴ですが、これは新築やリフォームとは全く異なる価値観ですので、「本当にここを直さなくてもいいの？」などと、職人さんも戸惑われることが多々ありました。

かくだビルは、おそらく敦賀のみんなが何かしなくてはならないと思っていた場所です。この建物が開かれることはとても意味があることだと思うので、携われたことを誇りに思います。使われなくなった物件を新しい何かに作り替えることができるのは、不動産業や建築業を生業とする者にしかできないことだと思います。自分の仕事を通して、こうしてまちに新しい息吹を持ち込めるのは、楽しみであり喜びです。



Theme

かぐ〜るで遊ぶ



変わりゆくつるが
「うず」は“そのさき”メディア
変わりつづけるつるが

変化するつるがのいまを眺め“そのさき”を想像すると なんだかうずうずしてきました
好奇心と創造欲に掻き立てられ“そのさき”メディア「うず」は生まれました
異なる速さの流れの中で生じる渦のように
つるがのいまを捉え かき混ぜて 未来へと流れていきます
「うず」をきっかけに まちに絶えることのない動きが生まれたらうれしいです



誌上の 空想

かぐ ～神楽ってみた～

2021年5月、「かくだビル(通称)」の1階が、遊べる公園「かぐ～る」へと生まれ変わりました。遊びはとても創造的な行為です。「かぐ～る」を考えた人たちは、この場所で遊ぶことが「かぐる」という動詞になるほど身近な存在になり、まちに楽しい遊びがあふれる未来を想像したようです。そこで「うず」は、この場所でワイワイ楽しむ人たちをイメージしてみました。これから繰り広げる空想物語は、「かぐ～る」を使った「うず」の”遊び”です。

ASOBERU KOUEN **KAGŪRU**

所在地 福井県敦賀市神楽町1丁目1-5
 開館時間 9:00～17:00 / 休館日:年末年始
 お問い合わせ ☎0770-20-0015 (港都つがが株式会社)



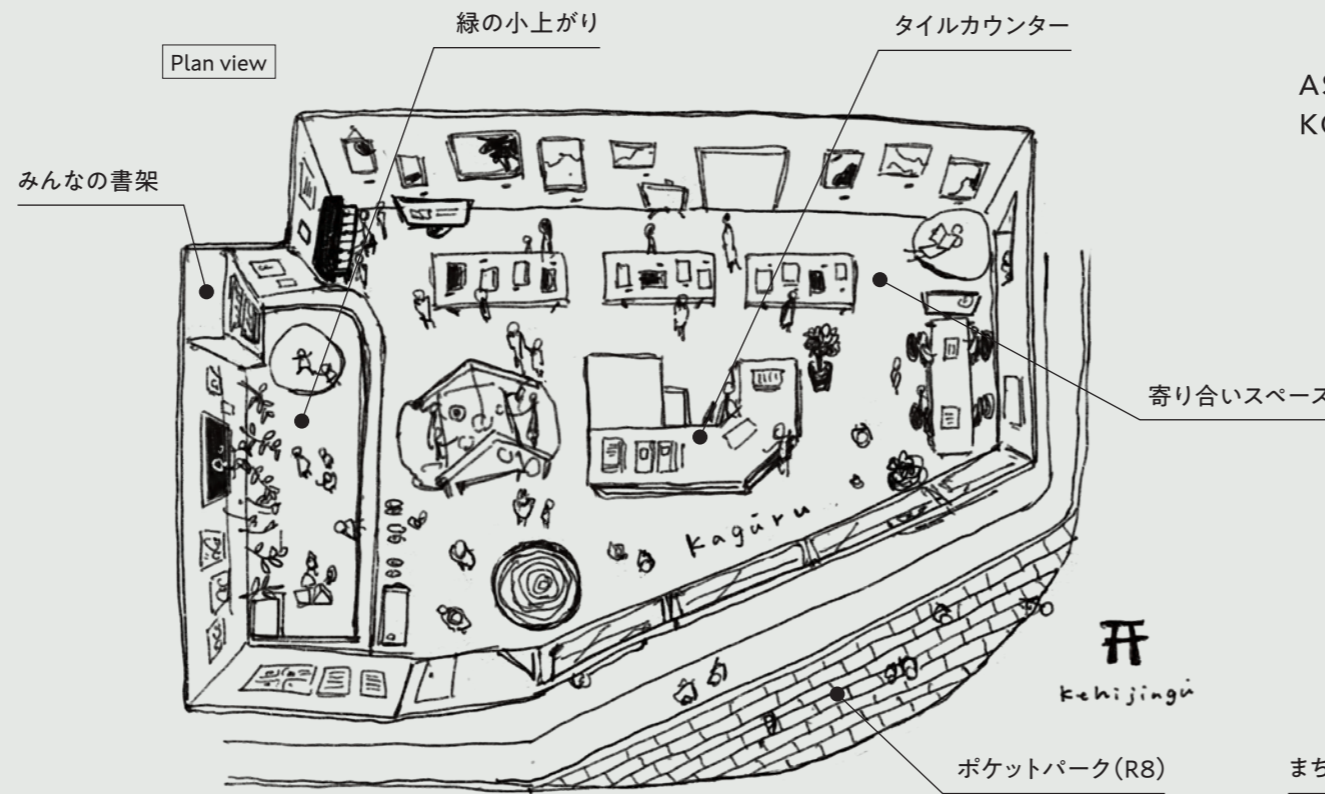
ガラスのファサードが開放感を生み、まちと公園を一体化させます。



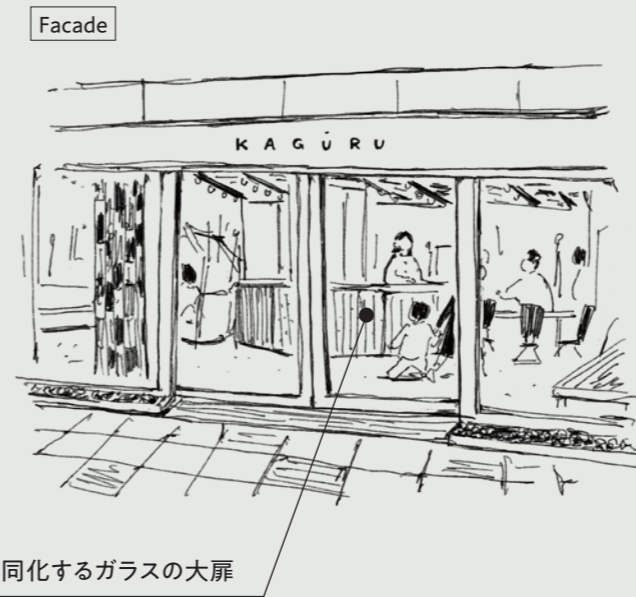
緑の小上がりは、寝そべったり、黒板で遊んだりできる、自由なリラックス空間。



寄り合いスペースにはアンティークな机とイス。明るい空間で会議や作業も捗ります。



ASOBERU KOUEN **KAGŪRU**



まちと同化するガラスの大扉



やぐら 櫓から見守るもの

屋下がり、子供たちは靴を脱ぎ捨て、黒板に落書きしたり、芝生を駆けずり回ったり、いつものようにはしゃぐ。私はお濃茶ラテを片手にママ友たちとおしゃべりを楽しむ。ファミレスのボックス席に屋根がついたようなこの席は、子供達を見張る櫓というところだろうか。あら、あの子、いつの間にひらがなも書けるようになったんや。ふと、天井のグリーンが目に入る。こないだ来た時はまだ葉っぱも少なかったのに、気づけばどんどん成長している。

日々の成長と変化を感じる



自由市場

恒例のイベントに直売の出店。今回も敦賀のありとあらゆる商店が集まっている。小上がりでは、呉服店さんが着物を展示し、その横では布団屋さんがかわいい座布団を販売中。雑貨屋さんや果物屋さんもある。屋根付きのテーブル席では、日本茶インストラクターによるお茶セミナーが行われるらしい。私は手作りの屋台に、色鮮やかな野菜たちを並べてウキウキしていると、「今日のおすすめはなんですか?」と常連さん。私は、今朝採れたばかりの、真っ赤なトマトをすすめる。

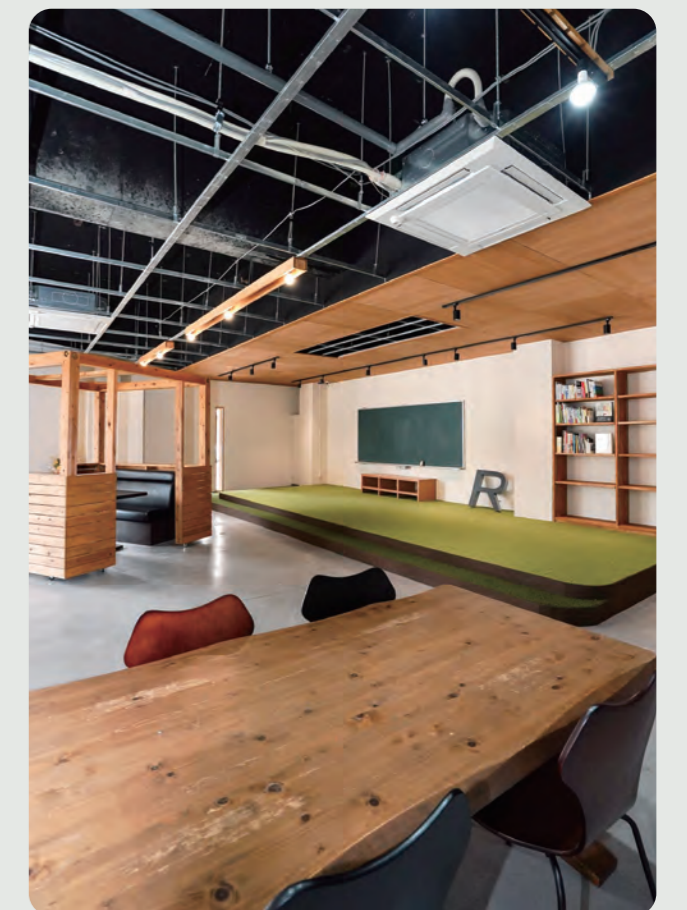
新しい商いに挑戦する



祭りの練習

近ごろ3輪車にハマル娘を連れ、家族で散歩に出かけた。氣比神宮の交差点に差し掛かると、聞こえてきた太鼓と笛の音に思わず足を止めた。ああ、宵宮の練習か、俺もかみさんも小さい時は一緒に練習していたなあ。太鼓がなかなか覚えられずにぐずっていた俺は、いつしか大人になり、同じ神楽で育ったかみさんと結婚した。数年後には娘も祭りの練習に参加するのだろう。緑色のステージで踊る子どもたちと太鼓の音に、娘は大きなガラスとびらの前でキャッキヤと笑っている。

受け継がれる地域の伝統



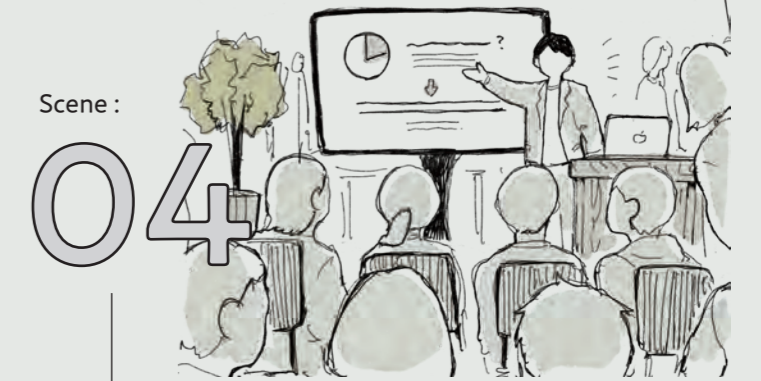
さまざまな使い方が共存できるよう、ゆるく仕切られた心地よい空間が広がります。

大鳥居と宴

乾杯の合図と、友人が手に持つ串焼きに食欲が刺激される。次は東浦みかんビールを飲もうかと考えていると、灯りのついた大鳥居が目に入る。なんて綺麗なんでしょう。ふとここで月見がしたくなった。イベントにしたらどうやる?屋台を外に置けば料理もできるし、鳥居と秋の月を見ながら酒と料理を嗜む。なんだか新しい俳句が生まれそうだな。そんなことを考えながら、いそいそと肉とビールを買い足しに行く。



Scene: 05 — 外とつながり広がる発想



Scene: 04

セミナー

敦賀にやってきて、まもなく4年が経とうとしている。海に山にと自然に囲まれた生活は豊かだなと感じる一方で、何かもの足りなさを感じていた。「きっと刺激になるよ」と友人に誘われ、あるセミナーに参加した。業界では有名だという講師が、ある商店街の中で「チャレンジショップ」を作った時の話にハッとした。うわあ、こういうことやってみたい!こういうチャレンジしやすい環境があったら僕にもできるかもしれない。そういえば、会場になっているこの場所、いろんなイベントやっていたよな。明日さっそく問い合わせしてみようかな。

学びから新しい動きが生まれる